# PoiMail2CP（ポイメール・ツー・シーピー）

**--- 既存のテキストファイルをそのままメール本文とする送信専用メールツール ---**

**Ver1.03.00 取扱説明書**

## ■ 機能概略

PoiMail2CP は送信機能に特化した送信専用のメールツールです。機能的には前作 PoiMail をより高機能にして操作しやすくしたものですが、設計からすべてやり直したまったくの別物です。双方間に互換性はありません。

PoiMail2CP の目的とするところは、定型文面の送信です。事前に定型文面として保存してあるテキストファイルを、そのまま本文としてメール送信します。
テキスト内にキーになる文字列､例えば ((today)) があれば､今日の日付に差し替えることや、((name)) とあればアドレス帳の 氏名 からその文字列を差し替えることができます。

起動書式に送信情報を記述したファイルを指定することができ、この中には送信先、本文テキストファイル、添付ファイルなどを記述できます。これが事前に用意されてあれば、ルーチンワーク的な操作を簡略できます。

## ■ インストール方法

インストーラは用意していません。任意のドライブに新規にフォルダを作成して、解凍されたファイル全てコピーします。後は、実行ファイルである PoiMail2CP.exe をエクスプローラ上でダブルクリックすれば動き出します。
必要に応じて、通常のショートカットを作り、ディスクトップ などにおいて置けば使いやすくなります。

プログラムをインストールするドライブは通常 Cドライブに行うのが慣例ですが、システムのパックアップとして、ドライブC のイメージファイルを保存されている方は、PoiMail2CP のインストールを Cドライブ 以外にすることをお勧めします。PoiMail2CP は送信ログやアドレス帳、環境設定ファイルなどをインストールしたフォルダに保存します。ドライブC だとシステム障害時のシステムリカバリー作業でこれらのデータが過去に戻ってしまうことになります。
ちょっと専門的ですが PoiMail2CP は MFCライブラリを抱え込んでいます。インストーラも使用していませんし、内部でレジストリも操作していません。他のドライブで動作させてもなんの影響も受けないはずです。
筆者の場合は D:\ProcData\PoiMail2CP というフォルダを作成してその中に実行ファイルなどをコピーして動作させています。

## ■ バージョンアップ方法

基本的にバージョンアップは PoiMail2CP を終了させ、配布された書庫ファイルを解凍して得られたファイルをインストールフォルダに上書きコピーするだけです。
インストールフォルダ内のユーザ固有の環境設定ファイルやデータファイルはそまのの引き継がれます。

**※インストールフォルダを開くには** ... PoiMail2CP を動作させ、
[メニュー]-[ファイル]-[インストール先を開く] を使うと便利です。
同時に終了させたい場合は、[メニュー]-[ファイル]-[インストール先を開き終了] を使用します。

## ■ アンインストール方法

アンインストーラはありません。PoiMail2CP を終了させた後、PoiMail2CP が収まっているフォルダ(インストールフォルダ)ごと削除してください。
インストール時や動作時にレジストリやシステム関連のフォルダは使っていませんのでアンインストールはこれで完了です。ショートカットを作成して使われていたら別途削除してください。

## ■ 動作環境

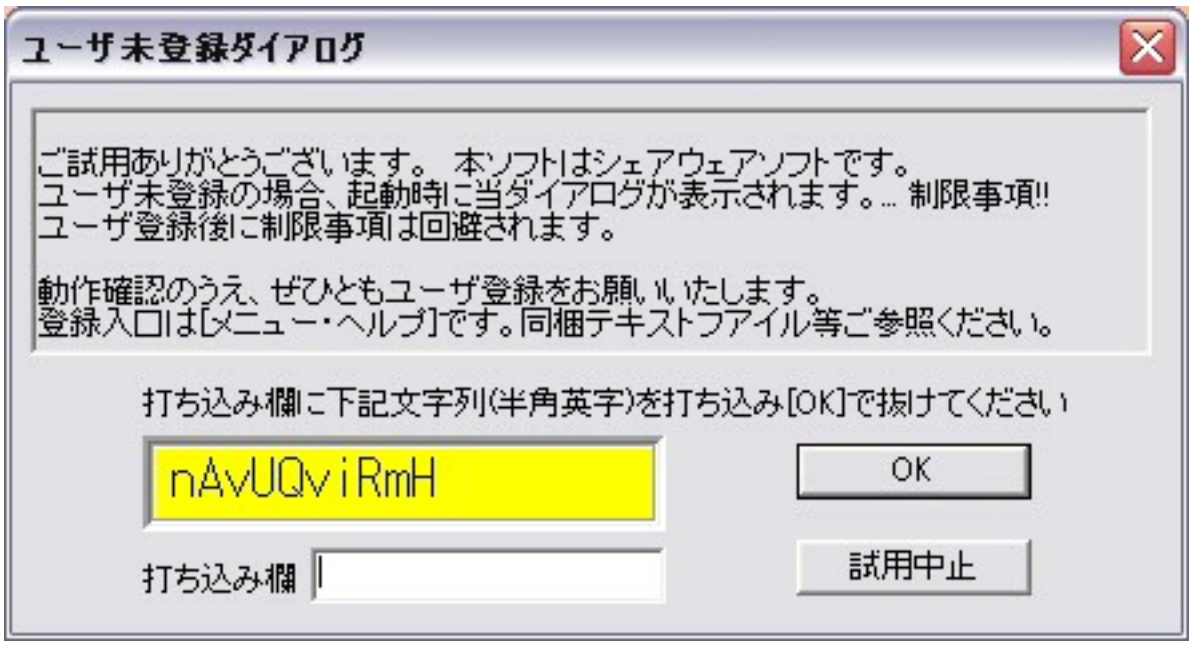
既存のほとんどの 日本語版ウィンドウズパソコンで動くはずです。実際に動作確認した環境は以下のものです。

日本語 Windows98 同 Windows98SE
日本語 Windows2000(SP4) ... 開発環境です
日本語 WindowsXP(SP2)

■ 起動とユーザ未登録ダイアログ画面

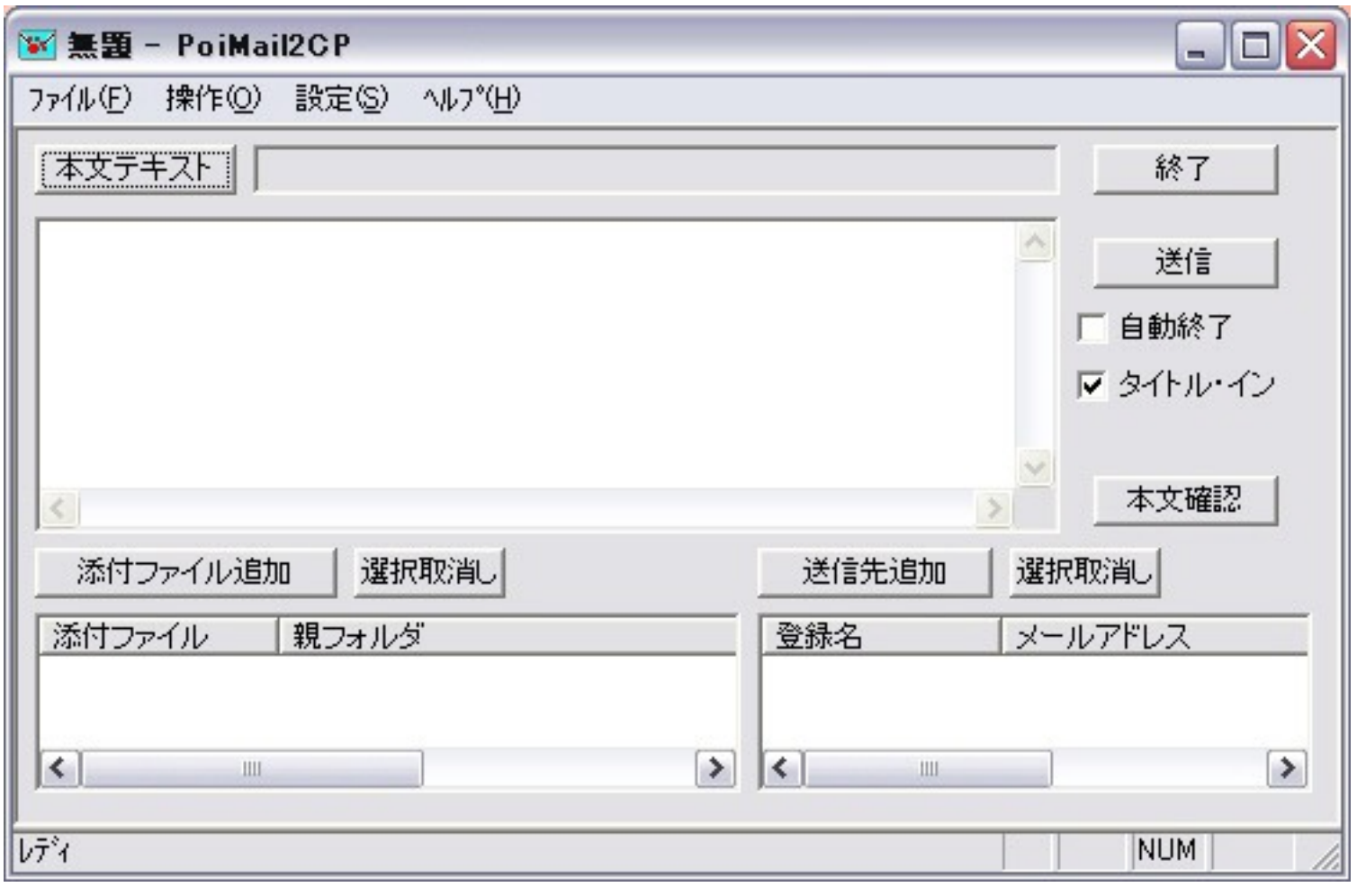
起動は、インストールフォルダ内の実行ファイル PoiMail2CP.exe をダブルクリックで行います。使用しやすいようにショートカットを作成し、デスクトップなどにおいておくことをお勧めします。
... 筆者作成の DocLaunCS を使用してもらうと嬉しいです。

PoiMail2CP はシェアウェアソフトです。正規に使用するにはユーザ登録が必要です。
起動すると、ユーザ未登録の場合、以下のような「ユーザ未登録ダイアログ」画面が表示されます。
制限事項はこれのみです。よろしくお願いします。




打ち込み欄に、上記の10文字(全て英字)を大文字、小文字を区別して打ち込んでください。
表示される文字列は毎回変化します。※大文字 I(アイ)と小文字 l(エル)に注意してください。

■ メイン画面




画面レイアウトの概略は、画面中央に、本文となるテキスト表示領域、ここで部分的な本文修正は可能になります。その上の１行枠には読み込んだテキストファイルパス名が表示されます。

画面左下には、添付するファイルの一覧表示、画面右下には送信先の一覧表示を行います。添付ファイルも送信先も複数指定できます。

メールのタイトルは本文の第１行目になります。したがってタイトルとしての指定は行いません。画面右

にある「タイトル・イン」のチェックは、送信したとき、タイトルとしての第１行目を本文の中に残すか、どうかのチェックです。

メイン画面のサイズは右下隅をドラッグすれば自由に変更できます。

## ■ メニュー[設定] 使用するための準備

メール送信には、事前準備が必要です。
１． 使用するメールサーバーの情報を登録する。
２． 環境設定を確認する。
３． 送信先をアドレス帳へ登録

### ◆メールサーバの設定

メニューの[設定]-[メールサーバ設定] で「メールサーバと差出人情報設定」画面を開きます。

登録する内容は通常のメールツールの設定と変わりません。加入されているプロバイダなどからアナウンスされている情報を記入します。
送信専用ツールなのにどうして受信(POP)サーバを記述するようになっているか、不思議に思われる方もおられるかもしれません。これは、プロバイダ側のスパンメールを防ぐための一種のセキュリティ処置で、メール送信者を不特定にしないためのものです。ユーザID と パスワードを使って、「今メールを送信しているものはあなたのところの会員です」と名乗った後にメール送信が可能になる。... こういう規定をつけているプロバイダが多くあるので、PoiMail2CP はそれに従っています。

差出人情報は送信相手に届く氏名とメールアドレスです。氏名は日本字であだ名やハンドル名などでもかまいません。メールアドレスは 正確に記述してください。

サーバの記述例として、@nifty の場合以下のようになります。これ以外の指定もあります。他のプロバイダも似たような記述になるかと思います。
　受信(POP)サーバ　... pop.nifty.ne.jp
　送信(SMTP)サーバ ... smtp.nifty.ne.jp

### ◆環境設定

メニューの[設定]-[環境設定] で「環境設定」画面を開きます。

<全体>

[終了を確認する]
[終了]ボタンなどで終了する前に確認画面を表示します。

[タイトル・イン]
本文テキストの第１行はメールタイトル(サブジェクト)に使用します。
チェックを入れておくと本文にもメールタイトルが残ります。チェック無しだと第１行が削除されたものが本文となります。

[送信速度調整]
メール送信時の速度を調整します。値は 1 ～ 100 の範囲で、デフォルト 5 です。数値が大きいほど速度が速くなります。
速度が速いとサーバ側(受信側)でデータの取りこぼしが起きやすくなります。
取りこぼしが起きたかどうか送信側では残念ながらわかりません。早くする場合は注意してください。
筆者のテスト環境では 20 ぐらいまではエラーは起きていないようですが、25 ぐらいからは頻発しました。
結果は使用環境によって変わると思われます。念のためにデフォルト 5 にしています。

[デフォルト・フォルダ]
本文フォルダは本文となるテキストファイルを保存するフォルダを決めているのであればそのフォルダを指定してください。メニューやボタンで本文テキストファイルを開くとき指定されたフォルダが開きます。
特になければ、無指定でかまいません。
[本文フォルダ] は参照ボタンになっています。

添付フォルダも本文のテキストファイルの場合と同じです。特にきめてるフォルダがある場合、指定してると添付ファイルを選択するとき、指定されたフォルダが開きます。
[添付フォルダ] は参照ボタンになっています。

設定フォルダは「送信セットアップファイル(送信情報ファイル)」を保存するフォルダを決めている場合はそのフォルダを指定してください。メニューの「ファイル」-「送信セットアップファイルを開く」を指定したとき最初に開くフォルダとなります。

<サウンド>

メールの送信過程でそれぞれ異なるサウンドを鳴らすことができます。同梱の音源ファイル(WAV)がデフォルトとして設定してあります。[呼鈴] ボタンで音の確認ができます。
不要の場合は、チェックをはずしてください。

音源ファイルは WAVファイル を使用してます。音源を用意すればユーザ固有のサウンドに変更できます。それぞれの[外部音源参照]ボタンで音源ファイルを指定してください。

なお、「途中経過音をこまめにに鳴らす」のチェック有り無しは送信スピードに直接影響します。サウンドを鳴らした場合は遅くなります。
環境設定 <全体> の [送信速度調整] を再調整する必要が出てくることも考えられます。

◆アドレス帳の編集

メニューの[設定]-[アドレス帳の編集] で「アドレス帳の編集」画面を開きます。

中央にボタンが並んでいます。その上がアドレスの編集領域で、下のリストになっている領域がアドレス帳になります。
アドレス帳の編集項目で、「登録名」「氏名」「メールアドレス」は必ず記入してください。あとは任意です。「氏名」は送信相手に届く名前です。「登録名」は相手に届きません。「登録名」は通常「氏名」でよいのですが、最近は複数のメールアドレスを所有している人が増えています。携帯メール、会社用メール、個人用メールなどです。例えば氏名に「山田太郎」とした場合は登録名に「山田太郎・携帯」とか「山田太郎・会社」などとしておきます。

「読み」はアドレス帳のリストで並び替えするためのものです。都合の良い並びになるように自由に記入してください。
「電話」「住所」はメール送信に直接かかわりありません。「その他の登録者データ」も含め、これらの情報は本文の差し替え文字列として使用されます。例えば本文中に ((telephone)) と記述した場合、送信先アドレス帳の電話項目の内容と差し替えます。一覧を下記に示します。

アドレス帳データから持ち込む 差替え文字列
((regist)) ・・・ 登録名
((name)) ・・・・ 氏名
((kana)) ・・・・ 読み仮名
((mailaddr)) ・・ メールアドレス
((telephone)) ・・ 電話
((realaddr))・・・ 住所
((data1)) ・・・・ 登録者データ１
((data2)) ・・・・ 登録者データ２
((data3)) ・・・・ 登録者データ３
((data4)) ・・・・ 登録者データ４

<ボタン>操作

[クリア]　　編集領域をクリアします。
[編集]　　リスト上のデータを１つ選びクリックすると編集領域にコピーされます。編集領域では内容の変更ができます。
[更新]　　リスト上のデータを１つ選びクリックすると編集領域のデータが選んだリスト上に上書きされます。
[追加]　　編集領域のデータがリストに追加され、登録数が１つ増えます。
[削除]　　リスト上のデータを１つ選びクリックするとその行のデータが削除され登録数が１つ減ります。

[キャンセル]　アドレス帳編集画面での操作をすべてなかったことにしてこの画面を閉じます。
[保存・終了]　現在のアドレス帳(リスト内容)をファイルに保存してこの画面を閉じます。

## ■ メール送信の概要

操作手順は以下のようになります。
１．本文となるテキストファイルを読み込む。
２．送信先をアドレス帳より選択する。複数指定可能
３．必要なら添付ファイルを登録する。複数指定可能
４．本文を確認する。
５．最後に送信ボタンをクリック。

### ◆本文テキストファイルを開く

テキストファイルはメモ帳などのテキストエディタで作成したプレーンなテキストファイルに限ります。また文字コードは シフトJIS コード限定です。テキストファイルの拡張子は通常 TXT です。それ以外の拡張子でもテキストファイルはあります。
以下のいずれかで既存のテキストファイルを開きます。

>> [メニュー]-[ファイル]-[本文テキスト開く] を使用する。
>> メイン画面の[本文テキスト]ボタン を使用する。
>> エクスプローラなどのファイル管理ツールからテキストファイルをテキスト表示領域にドラッグ・アンド・ドロップする。

テキスト表示領域に本文が表示されます。この表示領域はエディタの機能としては未熟ですが、部分的なテキスト変更は可能です。ここで表示されるものが、差し替え処理前の送信本文になります。

### ◆送信先の選択

送信先は、事前に作成したアドレス帳から選択します。送信先を直接記述することはできません。
※コマンドラインでの指定は出来ます。... ◆起動書式 を参照してください。
アドレス帳の呼び出しは、以下のいずれかの方法で行います。

>>[メニュー]-[操作]-[送信先アドレス追加] を使用する。
>>メイン画面の[送信先追加]ボタン を使用する。

アドレス帳(リスト)が表示されます。アドレスを選択(クリックして表示を反転させる)します。
[Ctrl]キーを併用してクリックすれば複数のアドレスを選択できます。取り消したい場合は、もう一度クリックすれば反転が戻ります。選択が終われば[OK]ボタンで画面を閉じます。

メイン画面の送信先一覧に選択したメールアドレスが表示されたはずです。

選択したメールアドレスを取り消す場合、
>>一部取消し ...　取り消すメールアドレスを選択し、メイン画面、送信先側の[選択取消]をクリック、
　　もしくは[メニュー]-[操作]-[送信先アドレス選択して取消し] を使用します。
>>全部取消し ... [メニュー]-[操作]-[送信先アドレス全て取消し] を使用します。

### ◆添付ファイルの登録

必要に応じて添付ファイルを送付することができます。送付にフォルダは指定できません。フォルダごと送付したい場合は、事前に書庫ファイルなどのパッキング処理を施してください。
添付ファイルの指定は、以下のいずれかの方法で行います。

>> [メニュー]-[操作]-[添付ファイル追加] を使用する。
>> メイン画面の[添付ファイル追加]ボタン を使用する。
>> エクスプローラなどのファイル管理ツールから任意のファイルを添付ファイル表示領域にドラッグ・アンド・ドロップする。

登録されればそのファイル名が添付ファイル表示領域に表示されます。

選択した添付ファイルを取り消す場合、
>>一部取消し ... 取り消す添付ファイルを選択し、メイン画面、添付ファイル側の[選択取消]をクリック、
もしくは[メニュー]-[操作]-[添付ファイル選択して取消し] を使用します。
>>全部取消し ... [メニュー]-[操作]-[添付ファイル全て取消し] を使用します。

◆本文の確認

本文に差替え文字列がある場合、差替え処理後の本文の確認を行えます。
差替え処理後の本文を表示するには、

>> [メニュー]-[操作]-[差替え処理後本文確認] を使用する。
>> メイン画面の[本文確認]ボタン を使用する。

「差替え後の本文表示」画面が表示されます。

画面は、上部に送信先に選択されているメールアドレス情報リスト、その下にタイトル(サブジェクト)と本文が表示されます。タイトル部は本文の第一行が抽出されたものです。本文にタイトルの第１行部分が残るか、削除されるかは、メイン画面にある「タイトル・イン」のチェックを入れるか、はずすかににより ます。

タイトルも本文も差替え処理後のテキストに変換されているはずです。ただし、送信先メールアドレスが複数指定してある場合はその第一番目(第一行目)の送信先情報に差し替えられています。
上部の任意のメールアドレスを選択して、[差替え実行]ボタンをクリックすると指定された送信先情報に差替え処理を試みます。

なお、この画面は本文の最終確認用でこの画面での本文修正はできません。メイン画面に戻って部分修正を行うか、テキストファイル自体をエディタ(別ツール)で修正し、読み直します。

◆送信

本文テキストと送信先が決定されればいよいよ送信です。送信は、

>> [メニュー]-[操作]-[差替え処理後本文確認] を使用する。
>> メイン画面の[送信]ボタン を使用する。

送信が始まると、メイン画面の最下部、ステータスバーに途中経過が表示されます。指定してあればサウンドも経過により鳴り出します。

メイン画面の [自動終了] のチェックを入れて送信が開始されたときは、正常に送信が終了したときプログラムも終了します。何らかのエラーが発生した場合は、このチェックは無視されます。そのときはステータス領域になんらかのエラーメッセージが表示されているはずです。

■ より便利に使うために

◆本文差替えデータ

本文テキスト中に (( で始まり )) で終わる 下記のようなキー文字列があると、メール送信直前に規定に従ったそれぞれの文字列に差替えられます。

| アドレス帳データから持ち込む | 差替え文字列 |
|---|---|
| ((regist)) | ・・・ 登録名 |
| ((name)) | ・・・・ 氏名 |
| ((kana)) | ・・・・ 読み仮名 |
| ((mailaddr)) | ・・ メールアドレス |

((telephone)) ・・ 電話
((realaddr))・・・ 住所
((data1)) ・・・・ 登録者データ１
((data2)) ・・・・ 登録者データ２
((data3)) ・・・・ 登録者データ３
((data4)) ・・・・ 登録者データ４

現在の日時データから持ち込む差替え文字列
((today)) ・・・　　今日の日付　　2009年10月05日(月)
((time)) ・・・　　今の時刻　　16時32分15秒
((year)) ・・・　　今日の年　　2009
((month)) ・・・ 今日の月　　10
((day)) ・・・ 今日の日　　05
((week)) ・・・ 今日の曜日　　月

◆起動書式
　起動書式での指定は、「送信情報ファイル」内部で指定されたものより優先されます。

/sendinf="送信情報ファイルパス名" および /sendinf=<clip>
　　メールの送信先やテキストファイルなどの送信情報を PoiMail2CP に渡します。
　　ファイルにより渡す場合はパス名を指定します。
　　このファイルを「送信セットアップファイル」または「送信情報ファイル」と称します。
　　ファイルのパス名 は "(ダブルコーテーション)でくくってください。

　　パス名の場所に <clip> と記述すると現在のクリップボードのデータ(テキストに限る)から
　　送信情報を PoiMail2CP に渡します。
　　<clip> には " でくくる必要はありません。 ... くくっても問題ありません。
　　/send=on 指定の場合はこのパラメータの指定が必須です。

/quit=on および /quit=off
　　メール送信が終了したらプログラムも終了する、および しない。
　　メール送信でエラーが生じた場合は /quit=on は無視されます。
　　送信情報ファイル内の指定よりも優先されます。

/send=on および /send=off
　　プログラムが起動されたら、送信操作を待つことなく即、メール送信開始する、および しない。
　　送信情報ファイル内の指定よりも優先されます。

/text="本文テキストファイルパス名"
　　指定されたファイルを本文テキストとする。
　　本文テキストファイルパス名 は "(ダブルコーテーション)でくくってください。
　　拡張子は自由ですが必ず、シフトJISコードのプレーンなテキストファイルであることが必要です。
　　送信情報ファイル内の指定よりも優先されます。

/to="アドレス帳の登録名" (Ver1.02.0 追加)
　　メールの宛先を指定します。
　　宛先はアドレス帳の登録名を指定します。必ず "(ダブルコーテーション)でくくってください。
　　**アドレス帳に登録していない宛先は、 "氏名<メールアドレス>" の形式を使います。**
　　必ず氏名とメールアドレス両方を指定します。全体を "(ダブルコーテーション)でくくってください。
　　(例) "山田太郎<yamada@xxxxx.ne.jp>"　　... 誤入力に注意してください。

　　アドレス帳未登録者への送信は、本文テキストの差替え処理に注意が必要です。氏名とメールアドレスしか
　　差替えの対象になりません。
　　送信情報ファイル内の指定よりも優先されます。

◆送信情報ファイル書式

送信情報ファイルは「送信セットアップファイル」とも称しています。起動書式に記述しきれない指定をファイルに書き込んで、そのファイルを起動書式 /sendinf= の後に指定するものです。
送信情報ファイル(送信セットアップファイル) はデフォルト拡張子 poi2 をもつテキストファイルです。

このファイルでの指定と、起動書式での指定で重複したものは起動書式で指定したものが優先されます。
例えば、送信情報ファイルで /send=on としてあっても、起動書式で /send=off となっていれば、自動送信開始は行われません。ユーザの送信ボタンのクリックを待ちます。

※送信情報ファイルの記述の原則
・各コマンド項目は行頭からはじめます。行頭にスペース、タブコードなどは入れないこと。

・各コマンドは =(イコール)まで含みます。= の左側にスペース、タブコードは入れないこと。
・= の右側は、即データ指定です。不用意なスペース、タブコードは入れないこと。
　あればそれも指定データとして、受け取ります。特にメールアドレス指定では注意してください。
・改行のみの空行は任意に挿入可能です。
・パス名指定などで "(ダブルコーテーション)は不要です。
　改行まではスペースも含め１行分すべてを指定データとして受け取ります。
・メールタイトル(Subject)指定は、本文の第１行目文字列を割り当てます。ここでは指定しません。

コマンド項目には以下のものがあります。

/quit=on および /quit=off
　　起動書式と同じ。

/send=on および /send=off
　　起動書式と同じ。

/text=<本文テキストファイルパス名>
　　起動書式と同じ。

/binfile=<添付ファイルパス名>
　　添付ファイルの指定。
　　添付ファイルが複数ある場合は、１件単位で複数行記述します。

/sendto-begin
　　メール宛先情報記述開始

/sendto-end
　　メール宛先情報記述終了

メールの宛先情報
　　/sendto-begin と /sendto-end の間に記述して１件の送信先とします。

　　※アドレス帳のフォームと同じです。
　　regist=登録名
　　name=氏名　　・・・必須
　　kana=読み仮名
　　mailaddr=メールアドレス　　・・・必須
　　telephone=電話
　　realaddr=住所
　　data1=登録者データ１
　　data2=登録者データ２
　　data3=登録者データ３
　　data4=登録者データ４

　　指定は「氏名」と「メールアドレス」だけが必須です。あとは、本文差替えデータです。

　　**regist=<登録名> を指定し、それがアドレス帳にあればその情報を参照します。**
　　**この場合は、「氏名」も「メールアドレス」指定も不要です。**
　　**アドレス帳の内容から変更したいデータ項目のみを指定します。**

複数の宛先指定は
　/sendto-begin ～ /sendto-end の間を繰り返し記述します。

◆送信情報ファイルの作成

送信情報ファイル(送信セットアップファイル) はテキストエディタで、いちから作ることもできますが、PoiMail2CP 自体に作成機能があります。

PoiMail2CP を起動し、規定の方法で本文テキストファイル､送信先､必要なら添付ファイルを設定します。その後、
[メニュー]-[ファイル]-[送信セットアップファイル作成] を使用すると、作成するファイル名とその保存フォルダを問い合わせる画面が開き、現在のセッティング状態で、指定されたファイル名で送信情報ファイルが作成されます。このとき拡張子は poi2 となります。
　... 慣例的に拡張子は３文字が多いですが、４文字あるいはそれより多くてもかまいません。

このファイルは拡張子が TXT ではありませんが、プレーンなテキストファイルです。メモ帳などのテキストエディタで開くことができます。
開いて、中を覗くと、「送信情報ファイル」の記述の方法がその書式の説明だけでは理解できなかったこ

とも、具体的に理解できると思います。ぜひ確認してください。

当然ながら作成された、poi2 ファイル(送信情報ファイル) を [メニュー]-[ファイル]-[送信セットアップファイル開く] で読み込ませると作成したときの設定状態が再現されます。
ただし、アドレス帳に関しては注意が必要です。「送信情報ファイル」の内部の記述は作成当時のアドレス帳の情報が記述されていて、途中、アドレス帳の修正を行った場合は、実際に動作させたときの情報と食い違っている場合があります。
現在のアドレス帳に従わせるためには、 regist= の１行を残し、他のアドレス帳からのデータ行を削除します。この場合も登録名が変更されていたり、削除されていると送信時にエラーが生じます。

◆送信記録

PoiMail2CP は送信を行うと、その送信記録(ログ)をテキストファイルとして残します。
送信記録の保存場所は、インストールフォルダの下に フォルダ名 Log を作成し、その下にテキストファイルとして 送信記録を残します。
ファイル名は log の後ろに日付の年月(yyyymm) をつけます。拡張子は txt です。
例えば log200911.txt などです。 ２００９年１１月分の送信記録となります。送信記録は 月単位でファイル化します。

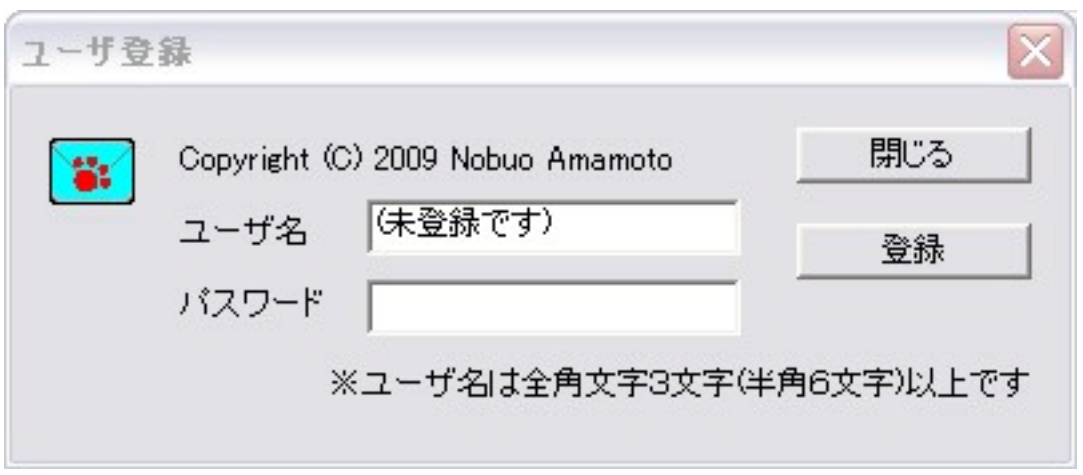
また、PoiMail2CP は送信を行うと、その本文(差替え処理後のテキスト) を残します。
本文の保存場所は、インストールフォルダの下に フォルダ名 Text を作成し、その下に本文ファイルを残します。
ファイル名は、オリジナルテキストファイル名の後ろに 送信時刻と通番( yyyymmdd-HHMMSS_n )をつけたものです。
通番は、同一メールを複数の送信先に送った場合の順番です。Zero から始まります。拡張子は txt です。
例えば ご挨拶テンプレート_20091107-125340_0.txt などです。意味としては、オリジナルテキストファイル名が「ご挨拶テンプレート」(拡張子は無視)で、2009年11月7日 12時53分40秒送付、その最初の送信メール を意味します。

現在(Ver1.01.1) は送信記録を、自身で閲覧する機能は組み込んでいません。筆者の考えとしては記録としてあれば、それでよいのではないかと思っています。テストを兼ねて使用している現場でも改めて閲覧する状況にはほとんどなっていません。要望が上がってくれば考えます。

■ユーザ登録

PoiMail2CP はシェアウェアソフトです。ユーザ登録がなされていない場合は制限事項があります。
ユーザ未登録時に表示される「ユーザ未登録ダイアログ」画面を一旦は「指定のオペレーション」で抜けて、Poimail2CP を動作させてください。

ユーザ登録画面は [ヘルプ]-[ユーザ登録] で開くことができます。




「ユーザ登録」画面が表示されたら

１．ユーザ名欄にある「(未登録です)」を消して、作成者から送付されたユーザ名を打ち込みます。
２．パスワード欄に、同様に作成者から送付されたパスワードを打ち込みます。
３．正確に打ち込んだなら、[登録]ボタンをクリックします。
４．打ち込みに間違いが無ければ登録された旨のメッセージが表示されます。
　... ユーザ名、パスワードのいずれかが違う場合はその旨が表示されますので再度 １～３ を試みます。
５．登録完了したなら、[閉じる]ボタンで画面を抜けます。
６．一旦、 PoiMail2CP を終了させ、再度起動してください。このとき「ユーザ未登録画面」が表示され

ること無く起動されれば間違いなく、登録は完了しています。